



好奇心の持続が“集中力”を生む!

先週金曜日、久しぶりに授業をしました。担任が所用で不在の際、3年1組の図工（粘土を使った造形活動）を校長の私が担当しました。



みんな夢中...

やっぱり授業は楽しい!

3年1組の子ども達との授業は、とても楽しい時間でした。それは、子ども達が喜々として造形活動に取り組む姿を見ることができたからです。私は授業の導入で、下に示したように、彫刻家のイラストを黒板に掲示し、吹き出し中の「めあて」を子ども達に伝えました。



彫刻家になって、切ったり、ほったり、けずったりして、見たことのないふしぎな物体を作ろう!

私は図工の授業をする際、必要な場合を除き、教科書を開かせません。それは、教科書の作品例を見て、子ども達のイメージが固定化されてしまう恐れがあるからです。今回の授業では、上記のめあてを提示した後、粘土を削る用具とその使い方を説明し、造形活動の手順を伝えた後、すぐに活動に取り組みせました。



気分は彫刻家です



満足♪

『13歳のハローワーク』(村上龍著)から

『13歳のハローワーク』は、「子どもが、好奇心を大切にして、好きな学問や技術、職業などができるだけ早い時期に学ぶことができれば、アドバンテージ（有利性）が生まれる」と考えた村上龍さんが、仕事選びの基準として「好きなこと」にこだわって書いた本です。

私は、どの子にも集中力はあると思っています。図工の授業の時の子ども達のように、好奇心に火がつけば、集中して取り組むのです。私は、集中力とは、「好奇心が持続している心や態度の状態」なのだと考えています。子ども達が自分なりの好奇心を見つけられる、そんな授業ができればいいと思います。